

父母主催 「唐丹希望基金に感謝する会」

案内状は支援者にメール配信すると同時に、ホームページにも掲載し広く参加を呼び掛けています。東日本大震災で校舎を失って仮設校舎での学校生活を 7 年間送り、今年は新校舎での学校生活 3 年に入ります。「唐丹希望基金に感謝する会」で、子供たちの成長した姿を見て頂きたいと思います。この会が参加した基金会員だけでなく子供たちや父母や教職員、地域の方々にとっても思い出深い交流として、いつまでも心に残ることでしょう。多くの方々の参加をお待ちしています。(参加申込み締め切り 2 月末日：唐丹基金事務局 高館千枝子まで)

令和元年 12 月 20 日

唐丹希望基金の皆様

唐丹希望基金に感謝する会

実行委員長 日野 英之

(釜石市立唐丹中学校 P T A 会長)

「唐丹希望基金に感謝する会」開催について (ご案内)

師走の候、唐丹希望基金の皆様におかせられましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より、唐丹の子どもたちを様々な面でご支援いただいていることに感謝申し上げます。

さて、唐丹希望基金様による震災支援が、今年度をもって一区切りとなさることを伺い、今までの支援に対しましてささやかではありますが感謝する会を、下記の要領で開催いたしたく思います。

つきましては、ご都合がございましたらば、ご出席いただきたくご案内申し上げます。

記

1 日 時 令和 2 年 3 月 1 4 日 (土) 1 3 : 1 0 ~ 1 5 : 1 0
* 午前中に唐丹中学校の卒業式を終え、昼食後に開催

2 場 所 釜石市立唐丹中学校体育館

3 次 第

- (1) 感謝状および記念品贈呈
- (2) 小・中学生による感謝の合唱
- (3) 唐丹小・中復興の歩み
(スライドショー)
- (4) 唐丹希望基金様御挨拶
- (5) 「希望のピアノ」寄贈に対する感謝の言葉
- (6) 記念写真撮影
- (7) その他



唐丹希望基金から歌に感謝を歌に込めて

唐丹希望基金は、東日本大震災直後から募金活動と並行して、「鎮魂の歌」「唐丹の海から世界へ」「I, YOU, WE」を日本国内はもとよりカナダ、アメリカ、フランスにも行って歌い、震災を伝える活動を続けました。感謝の集いで、これまでの交流に感謝を込めて歌います。特に「鎮魂の歌」は津波犠牲者に捧げる歌として、岩手県から世界へ向けて発信した歌なので、東日本大震災を伝える歌として、これからも大切に歌い継いでいきたい曲です。

1、「唐丹の海から世界へ」 堀 泰雄作詞 山田 哲夫作曲

YOUTUBE : https://www.youtube.com/watch?v=oCf_c7okiQU

楽 譜 : <http://eec-2020.com/shiryo/tounigakuhu.pdf>



(作詞者の言葉)

唐丹支援を始めてから、唐丹に行くたびに、唐丹の震災記念碑「伝え伝えつなぐ大津波 3. 1 1」を訪ねました。ここには、当時唐丹小中学校に在籍していた小学4年生から中学3年生までの言葉が刻んであります。その子どもたちの言葉を何回も読み、子どもたちと心の中で何度も対話を繰り返しているうちに生まれた詩が「唐丹の海から世界へ」です。

2、「I, YOU, WE」 作詞・作曲 キャロル・サック

YOUTUBE : <https://www.youtube.com/watch?v=GWB107Lgrt8&feature=youtu.be>

楽 譜 : <http://eec-2020.com/shiryo/iyouwegakuhu.pdf>

(作詞者の言葉)



2011年から三年間、毎年12月13日に唐丹町を訪れる事が許されました。それには色々な事情が関係しています。その一つが、スウェーデン国の文化です。スウェーデンでは、12月13日に「ルチア祭」を祝います。最も寒くて暗い日に「光」と「希望」の象徴とされるルチア女神の到来を皆で喜びあいます。

そこで、三年間「希望」のテーマを持って、他の支援者の方々と共に12月13日に唐丹町を訪ねてきました。毎年たくさんのろうそくの灯の中で、ハーブの音色と歌声で祈り、世界中の支援者から祈りと共に編まれたプレイヤー・ショール（祈りのショール）を携えて、静かな祈りの一時を過ごさせて頂きました。

この3年間の行事は、私の64年間の人生の中の最も意味深い、有り難いことでした。唐丹町の皆様にこうして歓迎していただけたことを非常に光栄に思っています。去年（2013年）、三回目に呼ばれて、胸がいっぱいになり、何か自分の感謝の気持ちを唐丹町の皆さんに伝えたくくなりました。何が出来るだろうと考え、「そう！小さな歌を誕生させよう！」そして「どういうメッセージを皆さんに伝えようか」と思案しました。15分間に「I, YOU, WE」の歌詞とメロディーが天から降りて来ました。2013年の唐丹サンタルチアで一度だけ、皆様の前で歌うつもりでした。ところが、ありがたいことに、色々の方々の温かい心と努力のお陰で、驚く事にこのような「素晴らしい本物の歌」になりました。そして、唐丹町の生徒達に歌われる運びとなりました。びっくり！と共に感謝、感謝です。

3、岩手県公立学校退職校長会制作 東日本大震災犠牲者に捧げる歌

「鎮魂の歌」 作詞 千葉隆男 作曲 太田代政男 編曲 柴田公平

YOUTUBE : https://www.youtube.com/watch?v=3i_G57DVCcQ&feature=youtu.be

楽 譜 : <http://eec-2020.com/shiryo/gakuhu2.pdf>

2012年～2019年7月末までの登録者と全楽譜・YOUTUBEの記録 :

<http://eec-2020.com/shiryo/tinkonkiroku.pdf>

(作詞者の言葉)



三月に受けとった県退職校長会の文書で、東日本大震災に係る「鎮魂・復興の祈りの歌」の募集を知った。当初は気にも留めな
いでいたのであるが、雪混じりの寒風が吹く日のウォーキング中
に、ふと、“あなたは、今どう思っているのですか”という囁き
声とも思える言葉を耳にしたように感じたのである。

ウォーキングコースには、地震によって崩落した道路の修復工
事をしている所があり、初めのころは作業している人たちに挨拶をして通り過ぎていたものである
が、やがて話を交わすようになった。中でも、他所の人と思われる口調の主任の人との会話で
は、工事の事や津波のことが話題であった。

そのためか、親戚や知人や教え子など、両手の指で数えきれないほどの犠牲となった人々の顔が
次々と浮かんで、在りし日のことが思い出されたのである。

バスの中で亡くなった人は、大揺れがあったときには同じ場所にいたのだった。また震災から半
年経った九月に執り行われた福島の子供の親戚の老夫婦の葬儀のことや、未だ行方が判らずにいる知人
たちにも思いが及んで、改めて、悲しみを深くしたのである。

犠牲になられた人たちのことはもちろんのこと、街並みの被災の様子を見たり聞いたりするた
びに「ああー」という嘆息が漏れだすことに気づき、書き出しを「ああ山揺れて海騒ぐ日」として
ペンを走らせた。

二番は復興への思い、三番は震災を語り継ぐ気持ちを綴り、御霊の安らかなることを祈る内容
とした。

少し硬い表現になったが、作り了えたとき、ウォーキング中に聞こえたあの囁き声に応えること
ができた気持ちになり、ほっとしたのである。

津波のとき、「てんでんこ」という避難の教訓もあるが40年も前に白山小学校の二年を担任し
たときのSさんは脚の不自由なおばあさん(母親)を避難させなければ、と職場から家に戻ったと
き津波に飲み込まれたとのこと。その母親は、近所の人たちの助けを得て安全な場所に移動して
いたという。

背順による整列時には先頭で、いつも、くりくりした目を輝かせていたSさんの顔が臉に、うか
び、残された母親の気持ちに想いを馳せると、悲しみが再び寄せてくるのである。

犠牲者の御霊に捧げようと、我流の節まわしで口ずさんでいたのであるが、有難いことに、専門
家の手によって曲づけされることになった。(千葉 隆男氏：2019年6月30日ご逝去。享年85歳)